

コロナ禍の中で気づいた小さな支えあいエピソード【一覧】

数か月前までは、人と会い、おしゃべりし、交流することが当たり前の生活としていました。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、私たちのこれまであった普通の暮らしができなくなりました。

政府の緊急事態宣言により、「Stay Home」人との接触を減らし自宅で過ごすことが多くなり、緊急事態宣言解除後も、感染防止対策として政府からは「新しい生活様式」に切り替えることを求められています。

今だからこそ気づく、「普通の暮らしの幸せ」。
支えあいは、人が集まらなくても、おしゃべりできなくても、普通の暮らしの、日常にあるもの、と改めて感じる日々です。そのようなエピソードを、地域の皆さまとお話しする中で耳にするようになりました。

今後、ほっこりするエピソードを「小さな支えあいエピソード」として掲載していきます。

以下、いままでに頂戴したエピソードをご紹介します。

中学生の職場体験から... 活動参加へ

新型コロナウイルスの影響により、自宅で過ごすことが多くなり、ふと、新宿区社会福祉協議会を思い出し、ホームページを見てみると「いつでも体験ボランティア」が目にとまり、何か役に立てるならと「介護用食事エプロン」作りに挑戦したそうです。

家庭科は苦手で、これまで授業以外で裁縫をすることはありませんでしたが、自分の作ったエプロンを地域の高齢者施設で活用してくれるなら...と。時間はかかったそうですが、3枚のエプロンを作り上げて持参してくれました。

私たち、新宿社協を思い出してくれただけでもうれしいことですが、介護用食事エプロンを作って、寄附をするというボランティア活動へのきっかけが、あの時の職場体験であるなら、これは社協の職員冥利に尽きることです。

新型コロナウイルスの影響で学校授業が受けられず不安の中、慣れない作業で大変だったと思います。この想いは地域みなさんにしっかりと届けさせていただきます。

春になったら新たな活動にチャレンジしていただけるとうれしいです。本当にありがとうございました。

※いつでも体験ボランティア

自宅でできるボランティア活動のひとつに、「介護用食事エプロン作り」があります。作成していただいたエプロンは地域の高齢者や障害者施設等にお渡ししています。

作り方や型紙は当社協HPに掲載しています。下記のURLにてご覧いただけます。

[介護用食事エプロンの作り方](#)

※職場体験

区内中学校の依頼を受け、社会性や働くことなどを学ぶ授業の一環として受け入れをしています。



よく遊び、よく学ぶ



Yさんは大学2年生。この夏、初めて保育園でのボランティアに挑戦しました。Yさんには小学校の先生になる夢があります。そのためのステップとして、子どもと接する機会をたくさんつくることにしたのです。Yさんの志をご理解くださった保育園に、Yさんは体調管理と感染対策を徹底して通いました。

園長先生の話では、遊びを通して園児たちはYさんに親しみをもち困ったときは頼りにしていたといいます。また、Yさんは保育士の対応をよく見ているとすぐに吸収し、臨機応変に園児に接することができたので、とても助かったのだそうです。

さまざまな年齢の園児たちと接する活動の中で、Yさんはそれぞれの遊びには発達に沿った目的が必ずあることを学びました。また、園児たちが小学校就学までに園で何を身につける必要があるのかも知りました。ボランティアを終えて「それぞれの年齢に合わせた話し方や接し方など難しいことが沢山ありましたが、とても有意義な時間でした。」と話すYさん、手ごたえ充分です。

多くのボランティアの方が「お手伝いに行ったつもりがこちらの方が元気をももらった」と話してくださいます。Yさんもボランティアを通して得るものがたくさんあったことでしょう。少しずつステップアップをしながらYさんが進む先には、先生として教壇に立つ姿があります。秋以降もYさんと園児たちとの触れ合いは続きます。よく遊び、よく学び、互いに支え支えられて、先生の卵、ただ今ぐんぐん成長中です。

支えあう しあわせ

田中さんは、あるきっかけから社協と関わって下さり、活動を始められたちょっと・暮らしのサポート協力員です。電球交換や荷物の移動など、ご高齢の方のちょっとしたお困りごとの解決を数度お手伝いいただいた後、帰り際に立ち寄っていただいた大久保ボランティアコーナーで、ふとおっしゃいました。

「社協さんがボランティア活動を調整してくれて、困りごとがある地域の方の手助けをしてい

るけれど、それは同時に手助けをしている私たちにとっても、人との出会いや活動の楽しみ

になっているんですよね」

地域での小さな支えあいは、決して一方通行のものではないと思っている私たちにとって、それはとても嬉しいお言葉でした。

田中さん、これからも、どうぞよろしくお願いします。



見守り協力員のバトンリレー

今回は、[地域見守り協力員事業](#)の協力員として長い間活動された A さん（80代）をご紹介します。

Aさんが見守り協力員活動をしている中で、気がかりなことがありました。ある見守り利用者B さんの様子がどこか素気なく、自分の訪問が歓迎されているのか不安になることがあったそうです。

ある時、社協職員が B さんと話す機会があり、以前自宅ベッドから転落した際に A さんに手助けをしてもらい、それ以来いつも頼りにしているとのこと。後日、その話を A さんに伝えると、とてもほっとされていました。

その後、B さんが亡くなられ、A さんからは見守り協力員を辞退したい旨のお話がありましたが、「今度は見守り利用者として新しい地域のつながりを作りませんか？」と社協職員から提案させていただきました。

新たに見守りの利用者となったA さん。見守り協力員との顔合わせ当日は緊張した様子でしたが、すぐに満面の笑みに。偶然にもお二人は以前から知り合いだったそうで、久しぶりの再会となりました。今回が初めての活動だった協力員さんは不安もあった中、この事業を通じてA さんと再び巡り会えたことに、何か不思議なご縁を感じたそうです。

顔合わせの終わりに、元協力員である A さんから新たな見守り協力員さんへ、「今度はあなたに（地域の見守り活動を）頼みますよ」との言葉があり、その笑顔はとても輝いていました。

これからも今回のようなボランティア活動のバトンリレーが地域に広まっていくように、地区支援担当として支援していきたいと思えます。

※【[地域見守り協力員事業](#)】 75 歳以上の一人暮らし、または75 歳以上のみの世帯の方などを対象に、地域の支えあい活動として地域見守り協力員（ボランティア）が月2回程度訪問する活動です。

